

定例市長記者会見

日 時：3月24日(金) 午前11時～11時30分

場 所：本庁舎特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長、山田副市長

報道機関 中日新聞、朝日新聞、毎日新聞、中部経済新聞、共同通信社、

本日の案件は、3つです。

1 番目は「令和5年4月1日付人事発令」についてです。異動が1,126名で昨年度より55名増えています。全体の3,839名中、約3割が異動します。令和3年4月1日の中核市移行の際、県からの保健所引き継ぎなどに対応するため、異動の数が多かった時と比較すると減っていますが、その年を除くと今年度の規模は例年並みと受け止めています。

新しい時代に適した働き方改革として、まず、坂野貴子さんを福祉部長に任命します。一宮市役所で最初の女性部長として、平成27年度まで在職された長野久美子さんに続く、2人目の女性部長です。坂野さんの経歴については、昭和63年に大学卒業後、民間企業に勤務されていましたが、平成14年に尾西市から中途採用され、市町村合併により今に至ります。今後は、女性の幹部職への登用をさらに進めていきたいと思っています。なお、課長級以上の女性管理職は、令和4年度の約3%に対し令和5年度は約7%で、約4ポイント増えます。比率としては1割にも達していませんので、少しでも増加していくことを期待しています。

男性職員の育児休業の取得を促進するため、育休を取得中の職員がいる部署への正規職員の配置を増やします。令和4年度は6人でしたが、5年度は9人配置します。育児休業を取得しやすい職場環境の実現を期待しています。令和2年度は男性の育休取得率が1割台でしたが、3年度には6割を超えました。令和4年度は集計中ですが、男性の育児が当たり前になるような風土を、一宮市役所からも発信していけたらと思います。

消防組織内へ事務職の次長を組織改革担当として配置します。残念なことに、昨年からは消防の不祥事が続きました。少し風向きや風通しを変えて新鮮な目で組織の見直しをするため、人事のスペシャリストである中村人事課長を配置します。

事務事業推進体制の主な見直しについては、デジタル実務経験者を登用します。中途採用で30・40代の有能な人材を採用しました。市民課に配置する職員は約6年間、保育課に配置する職員は約10年間、それぞれ民間企業でIT関係の仕事をしてきた方です。中核市としてのさらなる体制強化として、稲沢市と共同で一般家庭ごみ処理の体制を10年間スパンで構築するため、環境部の施設管理課は1人増員します。BISHU FES.（東京ガールズコレクション（TGC）関連イベント）の開催やシティープロモーションのため、活力創造部の産業振興課と観光交流課は1人ずつ増員します。さまざまな社会インフラ整備と合わせて区画整理や土地の開発が進むため、まちづくり部の区画整理課は2人増員します。新たな

部長職として配置する都市再生担当部長は、アートなどを活かした緑の多いまちづくりの推進、木曽川沿川のみずべリング、スマートインターチェンジの最優先箇所である丹陽地区の都市再生を担当します。

外郭団体への新たな職員派遣については、愛知県内の機関には2026年に開催されるアジア・アジアパラ競技大会に向け、組織委員会事務局に職員1人を派遣します。総合体育館がバドミントン会場に採用される予定です。アジアはバドミントンのレベルが非常に高く、最近は人気も上がってきているので期待しています。名岐道路の高速化等で高速道路関係のプロジェクトが進む名古屋高速道路公社にも1人派遣します。その他の機関では、(公財)日本消防協会からお声掛けいただき、東京へ職員1人を派遣します。

2番目は「民間のノウハウを市政に活かします～企業版ふるさと納税(人材派遣型)～」についてです。人件費を含む事業費を寄附していただくかたちで人材を派遣していただくものです。第一生命保険様から同時期にお二人も一宮市役所に派遣していただけることになりました。配属先について1人は広報課で、マスコミの皆さんと関わる機会もあるかと思えます。もう1人が博物館管理課で、芸術文化全般に携わっていただきます。民間のセンスを市の組織にもっと注入できればと期待しています。この件については、第一生命保険様との協定締結式を3月28日火曜日に行う予定です。

3番目は「特殊サギ対策装置を設置する高齢者を支援します」についてです。昨日、3月議会定例会が閉会し新年度予算をお認めいただきました。いち早く取り組みたいのが、この特殊詐欺対策です。残念ながら、昨年、市内で特殊詐欺の被害がとて増え、47件、1億円以上の被害が発生し、名古屋市以外の県内市町村でワーストでした。被害を食い止めるため、固定電話に特殊詐欺対策装置を設置したり、対策機能付の固定電話に買い換えたりする場合に7,000円まで補助します。他の市町村との違いは、高齢者のみの世帯の方だけでなく、日中に高齢者のみとなる世帯の方も対象とします。例えば、同居している息子さん夫婦がいても、昼間に仕事で不在であれば補助の対象といたします。また、補助制度のPRを市が、家電量販店・警察・金融機関と連携して実施することで、1人でも多くの高齢者に気付いていただけるように紹介いたしました。

以上、本日の説明でございます。

■令和5年4月1日付人事発令

(記者) 消防職の組織改革はどのように行いますか？

(市長) 消防ではこれまで、組織内での上意下達を尊重してきたため、行政職で行っている「部下による上司の評価」などの人事管理を採用していませんでしたが、新年度から導入します。勤務時間外に発生している不祥事を「規律の緩み」とみなして締め付けることだけが正解なのか判断する必要もあるので、行政職で人事経験が豊富な職員を次長職として配置します。ポストを新しく増やすのではなく、もともと消防職が配属されていた人事・庶務担当の次長職に、行政職を配置するものです。

(記者) 次長職に行政職を配置するのは初めてですか？

(市長) はい。そうです。以前、消防長は行政職でしたが、士気を上げるという理由で、十数年くらい前から生え抜きの消防職を配置するようになりました。現在では、日本社会全体で多様性が叫ばれ、同質的な組織の在り方についても疑問視がされるようになりましたので、今回、次長職に行政職を配置します。

(記者) 組織改革に何を期待しますか？

(市長) 消防職はいざという時、危険を顧みず任務を遂行しています。これまでは、その自立性に委ねて組織内に介入することはしていませんでしたが、昨年から続く不祥事を根絶するためには、踏み込む必要があります。全消防職を対象として意見を募ったところ、さまざまな意見が提出されましたが、今の組織には風通しの悪い部分もあるようです。消防職にはプライドを持って仕事をして欲しいので、新たに配置される次長を中心に、新しい仕組みがつけられることを期待しています。

(記者) 配置される行政職は1名ですか？

(市長) 再任用職員も1人配置しますので、合計で2名です。

(担当) その再任用職員も、人事課での経験が豊富な職員を配置します。

■民間のノウハウを市政に活かします ～企業版ふるさと納税（人材派遣型）～

(記者) 今回の企業版ふるさと納税（人材派遣型）では、市が人件費を負担することなく第一生命保険㈱から人材の派遣を受け、活用できるのでしょうか？

(市長) 第一生命保険㈱様に勤務する方は一度退職した後、一宮市で採用されます。採用後は、市が支払う給与に見合った額を第一生命保険㈱様からご寄附いただきますので、市からの支出はありません。

(記者) 一宮市が、企業版ふるさと納税（人材派遣型）で人材を受け入れるのは初めてですか？

(市長) 以前にも人材を受け入れたことはありますが、この制度を活用して受け入れるのは初めてです。県内では豊橋市、岡崎市、碧南市がこの制度を利用していますが、尾張地区では本市が初です。

(記者) 企業には税制面のメリットがあるかと思いますが、具体的にどの税がどのくらい軽減されますか？

(担当) 法人住民税、法人税、法人事業税の3種類で寄附額の最大6割、これとは別に、損金算入による軽減で3割が軽減されます。

(記者) 採用される2名はどのような方ですか？

(担当) 2名とも女性です。第一生命保険㈱様での経験年数や年齢を本市に当てはめ、広報課へ主任として、博物館管理課へ専任課長として配置します。

(市長) 今回は2名も派遣していただき、ありがたいと思います。

(記者) 2名の配置先は、第一生命保険㈱での勤務経験と関係がありますか？

(市長) いいえ、特にありません。

(記者) この制度の活用については、市から第一生命保険㈱に打診したのですか？

(市長) 第一生命保険㈱様から、お声掛けをいただいたものです。

(記者) 第一生命保険㈱のメリットは何ですか？

(市長) 投資の世界でも「ESG（環境・社会・ガバナンス）」重視といわれる中で、企業側は収益につなげていくことをしっかり考えていらっしゃると思います。多くの大企業が今、地方自治体との連携を進めているという印象があります。

(記者) 2年間の経過後、延長して実施しますか？

(担当) 今回派遣される方の延長も含め、制度は継続したいというご意向を伺っています。

■特殊サギ対策装置を設置する高齢者を支援します

(記者) 特殊サギ対策装置の関連予算は、令和5年度分に計上されていますか？

(市長) はい。計上しています。4月3日から早速、事業を開始します。